ふるさと名物
Furusato Meibutsu

東京都檜原村

ふるさと名物応援宣言

『木材産業の推進と檜原産材（多摩産材）の地産地消をめざして』

ひのじゃがくん
（檜原村公式キャラクター）

ふるさと名物応援宣言

『木材産業の推進と檜原産材（多摩産材）の地産地消をめざして』

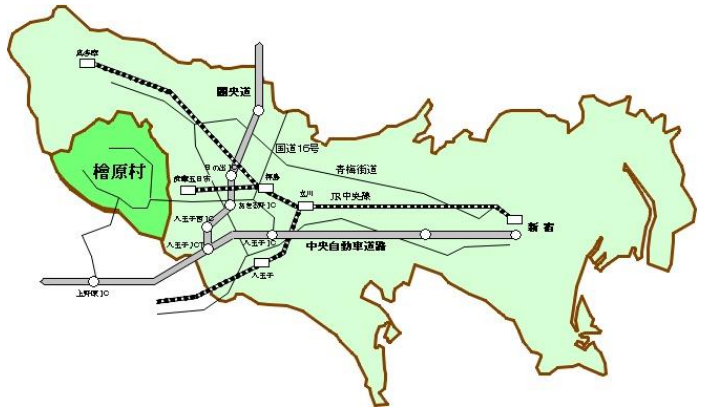
東京都檜原村
平成２９年３月９日

地域のプロフィール

■気候・歴史・文化

檜原村は東京湾に注ぐ138ｋｍの多摩川の最大の支流「秋川」（34ｋｍ）の源流に位置しています。
面積は105.41ｋ㎡となっており、東京都では、奥多摩町、八王子市に続き３番目の大きさを持つ自治体となっています。
村の周囲は急峻な山嶺に囲まれ総面積の約93%が林野で平坦地は大変少なく、村の大半が秩父多摩甲斐国立公園に含まれています。

その昔、多くの人が住み始めた江戸では大火が多かったようで、町並み復興の木材は檜原村からも多く調達されたようです。
その後、炊事や暖房用の家庭用燃料や産業用燃料として木炭・薪を製造し、社会的にも経済的にも大きな役割を担いました。



昭和20年～30年代頃には、戦後復興等のために木材の需要が急増し、供給が十分に追いつかず、政府は「拡大造林政策」を行い、檜原村においても、主に広葉樹からなる天然林を伐採した跡地や原野などを、スギやヒノキなどの針葉樹である人工林に置き換えるようになりました。
これにより、檜原村では昭和３０年代から４０年代にかけて、木材に関連する１次産業と２次産業が活発化し、全体の割合でも７０～８０%を占め、木材産業が主流な地域として発展しておりました。
現在では、低価格の輸入材が多く使用される時代となり、主伐が可能な木材資源が豊富にあるものの、需要が低迷し間伐材と含めた木材利用拡大が地域の課題となっておりましたが、近年国産材の利用の動きもあって、東京の山の再生が官民一体となり、着実に取り組まれてきております。

ふるさと名物の内容

■主な地域資源　多摩産材

「多摩産材」は適正に管理された多摩地域の森林で育成・生産され、多摩産材認証協議会によって産地証明・品質認証された木材のことです。

多摩産材はスギ・ヒノキが大半で、多摩産材のスギは全国平均より、年輪密度が高く、曲げ強度が全国平均を上回っており、住宅構造材等の活用に適しており、ヒノキは油脂分が多く、色つやが良く、木工品等の原料として活用がされています。

■ふるさと名物　多摩産材を活用した木工製品・用材

檜原村内では、個人で経営している木工所や木材加工所が点在しており、「多摩産材」の間伐材を利用した木工品を製造し、お土産品として販売しています。主に子どもの頃から木に親しんでもらうため、木のおもちゃなど趣向を凝らした木工品の開発・販売に力を入れています。

また、木材の本来の使用方法でもある用材活用としても需要のある東京都心部から程近い当村の立地を強みとし、搬入コストの少なさと輸送にかかる環境負荷の軽減をＰＲし、木材の地産地消の促進を図っています。

檜原村の取り組み

■村内公共施設における木材利用促進

檜原村では、平成１６年度に実施した小・中学校各教室の木質化をはじめ、多摩産材をさまざまな公共施設に利用を行ってきました。

教室の木質化

村立図書館の内部

檜原産材を使用した住宅

ウッドスタート宣言

■ウッドスタート宣言による木材利用の促進

子ども達が小さい時から木と触れ合う機会を創ることにより、木に対するイメージを膨らませ、延いては将来的に木材に携わるような仕事につくことも期待することを目的に、村では日本グッド・トイ委員会が展開している「木育」行動プランである「ウッドスタート宣言」を平成２６年１２月１８日に宣言いたしました。現在、檜原村では「木育」の推進として、出生児に木製おもちゃの贈呈や木のおもちゃと触れ合うことのできる「出張おもちゃ美術館」などを開催し、子ども達を中心としたさまざまな木と触れ合う事業を展開しています。

ウッドスタート事業から飛び出し、「おもちゃ製造」や「木工製品」の生産地としてブランドを確立するとともに、新たな起業等の可能性も探っていきます。

木工品の贈呈

木のおもちゃ